計画書作成日　2024年 4月 1日

　　　　　　　　申請者所属・職名・氏名：生活健康科学プログラム・教授・放送太郎

**【留意事項】**

* 本記入例を確認する前に、必ず研究計画書記入例を確認してください。
* 電磁ICに関する記載が必要な項目（4～10）のみ示してありますのでご留意ください。
* 様式の改変は認められません。

上記についてご確認いただきましたら、このテキストボックスを削除して閲覧を始めてください。

1. 研究の方法及び期間

## 実験・調査の方法あるいはデータ収集の方法

*（Zoom等によるインタビューの場合：）*Facebookの不登校の親のグループにて調査への参加を呼びかけ、併せてスノーボールサンプリングにより研究対象者の紹介を受ける。説明後同意を得た研究対象者に対し、Zoomにて半構造化インタビューを１人に２回実施する。調査には､研究対象者の同意を得てZoomの録音・録画機能を用いる。面接時間は60分～90分､延長する場合は合わせて最大120分までとする。

*（Google Forms等によるアンケートの場合：）*Facebookの不登校の親のグループに投稿する形で調査への参加を募る。無記名によるGoogle Formsを利用したオンライン調査とする。

## 研究デザイン

*（Zoom等による面接の場合：）*質的帰納的アプローチによる因子探索型研究

*（Google Forms等によるアンケートの場合：）*横断研究デザイン

## 実験・実査のスケジュール

倫理審査承認後○～○月にかけての3週間に、クラウドソーシングサービス（サービス名）を通して募集した研究対象者に調査を実施する。ただし、実査終了時期は、回答者数の状況により１ヶ月程度延長する可能性がある。

## 研究終了期限（分析、執筆、公表作業の終了時期を含む）

20××年3月31日を研究終了期限とする。

## 研究中止基準

*（Zoom等によるインタビューの場合：）*インタビューの際、30分程を目安に休憩を挟みながら実施するが、面接実施中に研究対象者の心身にネガティブな影響が見出されたときには、研究者の側から直ちに研究を中止し、カウンセリングが可能な専門家へ繋ぐなど、速やかに必要な対応を行う。また、研究対象者が、面接途中であっても答えたくない、語りたくない気持ちになった場合には面接を中断し、インタビューを中止する。かつ、研究対象者が希望した場合は直ちにデータを廃棄する。

*（Google Forms等によるアンケートの場合：）*自由意志による回答のため該当しない。

## 測定項目・データ収集項目・評価項目 *（Zoom等によるインタビューの場合：）*

インタビューガイド（資料1）に従って、職場において尊敬の感情を感じた状況とその時に感じた感覚について面接により確認する。

*（Google Forms等によるアンケートの場合：）*

基本属性（性別､子どもの人数）、不登校の心理過程である先行要因・情報（初めて知ったタイミング・きっかけ、印象に残った内容）、子供との心理的距離感尺度、現在の精神状態、生活満足度について調査を行う。具体的な項目は調査票（資料1）を参照のこと。

## 分析方法

*（質的研究の例：）*録画・録音内容を書き起こし、作成したトランスクリプトを分析対象とする。M-GTAの手法に則り構造分析を行い、対象の意思決定に関する思いを主軸としたプロセスを明らかにし、プロセス図を作成する。

*（質問紙調査の例：）*回答データセットより単純集計､スチューデントt検定､一元配置分散分析による二変量間の検討ならびに、一般線形モデルによる重回帰分析を行う。分析には統計解析ソフトIBM SPSS statistics 29を用いる。

1. 研究対象者の選定方針

## 研究対象者の選定基準・除外基準について

*（Zoom等によるインタビューの場合：）*

○歳以上○歳以下の母親のうち、以下の選定基準および除外基準に従って研究対象を決定する。研究対象者はクラウドソーシング（サービス名）によって募集する。

＜選定基準＞

1. 過去、または現在、不登校児を抱えていた経験を持ち、今現在親子関係の葛藤から抜け出せていると自身が感じている母親
2. 研究調査者の知人、もしくはカウンセリング関係等の専門的な関係を持っていない方
3. Zoom実施の環境があり、操作に負担感のない方

＜除外基準＞

1. 現在葛藤のさなかであると感じている方。

*（Google Forms等によるアンケートの場合：）*

Facebook母親グループに参加している250名のうち､現在または過去に不登校児を抱えていた経験がある方を対象とする。

## 予定研究対象者数及びその設定根拠

*（質的研究の例：）*サンプルサイズは10～14名とする。ただし、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ法（M-GTA）による理論的サンプリングを行う。

*（質問紙調査の例：）*サンプルサイズは、多変量解析（二項ロジスティック回帰分析）を実施する場合に必要な、説明変数の数（約10）×10以上であることとして1,008名と設定した。

*（介入研究の例：）*○○に基づき、効果量を0.5、有意水準0.05、検出力0.8とし、各群で64名程度合計○○名と設定した。

1. 研究の科学的合理性の根拠

*（Zoom等によるインタビューの場合：）*

本研究は、研究対象者の「距離感に関する経験」をその成り立ちから探求することを目的としているため、M-GTAによる質的記述的方法は妥当である。また、30～40歳代のFacebookユーザーが中心であり電子端末使用方法について一定の理解があることから､Zoomを用いたインタビューはアクセシビリティやユーザビリティの観点から適切であると判断した。インタビューガイドはリサーチクエスチョンに即した構成となっており、研究実施にあたり妥当な内容となっている。本研究は、研究責任者の修士論文に資する研究として実施し、研究指導責任者である放送大学教員が指導するという研究体制を取っており、定められた期間内に研究成果を挙げることができる。

*（Google Forms等によるアンケートの場合：）*

本研究は、対象者の実態を明らかにすることを目的とするものであり、量的研究は妥当な方法である。研究対象者は子育て中であることが多いため、パソコンまたはスマートフォンから手軽に回答できるGoogle Formsを使用したオンライン調査は最適である。調査項目は、○○・○○・○○等のそれぞれに関する項目から成り、これらは研究目的の達成において必要な項目である。本研究は、研究責任者の修士論文に資する研究として実施し、研究指導責任者である放送大学教員が指導するという研究体制を取っており、定められた期間内に研究成果を挙げることができる。

* ZoomやGoogle Forms等、調査方法として選択した理由を端的に示すこと。

1. インフォームド・コンセントを受ける手続き等

*(Zoom等によるインタビューの場合：)*

研究対象者にメールまたはMessengerアプリで説明文書を送付する。研究対象者は添付された説明文書を読み、添付された同意文書に署名をし、スキャン・撮影したファイルをメールあるいはMessengerアプリに添付して研究者に送ることとする。研究対象者の主体が30～40歳代のFacebookユーザーであり、参加連絡および紹介を受けたのちMessengerアプリおよびメールアドレスによりやり取りを行うことになることから､本方法は研究対象者にとって負担感のない方法である。

説明文書には問い合わせのための連絡先を明記し､研究対象者が同意するにあたり質問をする機会を保証する。またインタビューの開始にあたっては、説明文書に目を通し同意を示した本人であることについて、口頭で必ず確認する。本調査は侵襲がなく､Zoomによる同時双方向のやり取りを行うものであるため､本人確認の方法は妥当である。

* 研究の同意を得るための手続きの方法と、それを選択した理由を具体的に示すこと。
* 本人確認の方法とそれを選択した理由を端的に示すこと。侵襲がない研究の場合、研究参加への同意は面接時の口頭もしくはメールに対する返信による同意でもよい。
* 侵襲（軽微なものも含む）がある研究の場合には、写真入りの身分証明書等で本人確認を行う旨を示すこと。プライバシーに関する情報が入っている場合があるため、その部分の録画はしないよう、隠して提示してもらうなどの配慮をすること。

*（Google Forms等によるアンケートの場合：）*

説明文書が掲載された説明画面にアクセスできるようweb画面をレイアウトし、回答を始める前に説明画面に目を通すことを促す。また､説明画面をダウンロードないし印刷して手元に置くことを促し､調査終了後も目を通すことができるようにする。回答を始める前に､説明文書に目を通したうえで調査に参加することを確認するためのチェックボックスを設け､チェックが入っている場合に調査への参加を同意したとみなすこととする。

説明文書には問い合わせのための連絡先を明記し､研究対象者が同意するにあたり質問をする機会を保証する。なお､無記名で実施するため､回答後に回答内容の修正や参加の取り消しの申し入れがあっても対応できないことについて､説明文書に明記する。

* 要配慮個人情報（健康・信教・刑罰歴等）に関わる回答を求める調査の場合は、必ず同意を確認するためのチェックボックス等を設けること。

1. 個人情報等の取り扱い

## 個人情報への配慮

本研究にかかわるすべての研究者は「ヘルシンキ宣言」ならびに「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を遵守して実施する。研究実施にかかわる情報を取り扱う際は、研究独自の番号を付して管理し、研究対象者のプライバシーにかかわる情報保護に十分配慮する。研究の結果を公表する際は、氏名、生年月日などの直ちに研究対象者を特定できる情報を含まないようにする。また、研究の目的以外に研究で得られた研究対象者の情報を使用しない。

## 仮名加工情報又は匿名加工情報を作成する場合にはその方法

*（Zoom等によるインタビューの場合：）*

取得したインタビューデータを整理する際は、対象者は事例１、事例２とする。またデータ内の固有名詞はアルファベットに変換して匿名加工情報を作成し、語りの内容については、分析・解釈に影響を与えない範囲で必要時に変更を加える。

*（Google Forms等によるアンケートの場合：）*

無記名によるオンライン調査につき非該当

1. 研究対象者に生じる負担並びに予測される利益・リスクと対策

## 研究対象者に予測される利益

不登校児と母親の心理的距離感の新たなバランスの確立の方向性が見出されたならば、研究による報告の蓄積により、同じ葛藤のさなかにいる母親、不登校児、両者に共有され、閉塞感からの打開の一助となり得る。

## 研究対象者に生じる負担と予測されるリスク

*（Zoom等によるインタビューの場合：）*

1. インタビューにかかる時間の身体的負担が生じること、および語りの中で辛い記憶の想起によるネガティブな心理的負担が生じる可能性があること
2. インターネット環境ならびに端末機器においてトラブルが生じ、通信が途絶える、機器の使用が不能になるなどの事態が生じること
3. 自宅などプライベートの場でZoomを使用する場合､部屋の様子、子供の声、騒音､その他個人を特定するものなど、本来映ってほしくないものが映りこむ可能性があること

*（Google Forms等によるアンケートの場合：）*

1. 質問紙への回答に20分ほどを要するため、その時間において身体的負担が生じること
2. 子が不登校になってから今までについて思い出して記載してもらう形をとるため、心理的な負担が生じ体調が悪くなる可能性があること
3. インターネット環境ならびに端末機器においてトラブルが生じ、通信が途絶える、機器の使用が不能になるなどの事態が生じること
4. 悪意を持った第三者によるインターネットを通じた攻撃により､回答情報が漏洩する可能性があること

* オンラインを利用することにより生じる負担とリスクを記載すること。

## 負担・リスクを最小化する対策

*（Zoom等によるインタビューの場合：）*

1. インタビュー時間の身体的負担や辛い記憶の想起などによりネガティブな影響が見られた際は、直ちに休憩を取るか、インタビューを中止するなどの対応をする。必要な場合は研究者と対応を協議し、必要に応じて医療機関やカウンセリング機関を紹介する等の旨を伝え、配慮する。インタビューにて､研究対象者が話したくないことは話さなくてよいこと、いつでも研究参加の同意を撤回でき録画した動画や音声は削除できることを､インフォームド・コンセントの際に伝える。
2. 疲労感が大きく中断した場合、残りのインタビューは別途実施することが可能であることを事前に伝える。
3. 携帯電話の番号を両者で事前に共有しておき､通信環境や操作においていわゆる「落ちる」など途切れる事態があった場合に対処する。対応時間が大幅にかかる場合には別途日程調整を行えるよう､調査期間に余裕を設ける。また､ Zoom の操作で不安を与えないよう､あまり機能を使いすぎない。
4. プライベートの場で面接に協力する場合は､見られたくないものが映り込んでしまわないよう､事前に注意を促す。

*（Google Forms等によるアンケートの場合：）*

1. 説明文書に回答時間の目安（20分程度）を示し、余裕があるときに回答するよう促す。
2. 説明文書に回答はあくまでも自由意志であること、および不明な点がある場合の連絡先を明記し､公明性に努める。
3. インターネット環境ならびに端末機器においてトラブルが生じ、通信が途絶える、機器の使用が不能になるなどの場合は、時間をおいてから改めて機器を立ち上げ直し指定のサイトにアクセスすることを説明文書に明記する。
4. Google Formsでは回答データはSSLにより暗号化されて送信される。Google上のデータは常時SSL化されているなど一定のセキュリティが維持されている。回答されたデータセットは､研究者以外の目に触れないように研究責任者が責任をもって管理する。Googleアカウントについて定期的にパスワードを変更してセキュリティの維持を心掛ける。

* オンラインを利用することにより生じる負担とリスクに対し、それらを最小化する対策を記載すること。

1. 試料・情報（研究に用いられる情報に係る資料を含む。）の保管及び廃棄の方法

*（Zoom等によるインタビューの場合：）*

Zoomクラウド上の録音・録画データは､データをダウンロードしたのちに削除する。ダウンロードした録音・録画の記録データは、インタビュー終了後直ちに外部記憶媒体へ移行して自宅の鍵付き棚に保管し、研究終了後は直ちに外部記憶媒体を破壊する。トランスクリプトや研究に使用したメモなどの資料は、電子データはインターネットから遮断した外部記憶媒体にて、紙資料はそのまま、研究終了後10年間鍵付き棚にて保管する。管理期間終了後、外部記憶媒体は破壊し、紙媒体のデータはシュレッダー等にて完全に廃棄する。

*（Google Forms等によるアンケートの場合：）*

Googleクラウド上のアンケートの回答データは､ダウンロードしたのちクラウド上のデータを削除する。ダウンロードした回答データは、直ちに外部記憶媒体へ移行して自宅の鍵付き棚に保管し、研究終了後は直ちに外部記憶媒体を破壊する。トランスクリプトや研究に使用したメモなどの資料は、電子データはインターネットから遮断した外部記憶媒体にて、紙資料はそのまま、研究終了後10年間鍵付き棚にて保管する。管理期間終了後、外部記憶媒体は破壊し、紙媒体のデータはシュレッダー等にて完全に廃棄する。

* クラウド上にデータを記録・保管する場合は、その取扱いについて明記すること。